

2023年2月新着情報



海外での興味深い取り組み・ニュース

- WHO: 国際疾病分類 ICD-11 2023 のリリース (2/14)
 - <https://www.who.int/news/item/14-02-2023-icd-11-2023-release-is-here>
 - <https://japan-who.or.jp/news-releases/2302-25/> (日本語情報)
 - ICD-11 は 2022 年 1 月に発効し、国や国際レベルで病因や死因などの記録・報告に使用される。2023 年の ICD-11 リリースでは、最先端のコーディングシステムや多言語アクセスの利点をさらに強化・活用しており、主な特徴は以下の通りとなっている。
 - ◇ 早期から ICD-11 を採り入れた国や翻訳者、科学者などから、2022 年以降に 500 件以上の提案が寄せられ、これらの案を反映。
 - ◇ 多言語ブラウザで、アラビア語、中国語、英語、フランス語、ロシア語、スペイン語、トルコ語に対応(今後さらに 23 か国語を追加予定)し、アクセスを改善。
 - ◇ コーディングのサポートが新設および改善され、メンテナンスのプラットフォームもアップグレード。
 - ◇ マッピングテーブルの正確性を改善。
 - ◇ 現行の COVID-19 ワクチンや SARS-COV-2 サブタイプのリストなど、内容を更新。
 - ◇ 翻訳者やユーザーからのフィードバックにより、リファレンスガイドを更新し、オンラインで閲覧可能に。
 - ◇ 使用条件は icd.who.int で確認でき、ブラウザから最新版や過去のリリースをダウンロード可能。
 - ◇ 死亡率と罹患率の特別集計リストはオンラインで公開されているが、今回、これらのリストをより簡単に編集できる新しい電子プラットフォームが利用可能に。
- 欧州: EU 全体における 2022 年の年齢中央値は 44.4 歳 (2/22)
 - <https://ec.europa.eu/eurostat/en/web/products-eurostat-news/w/ddn-20230222-1>
(より詳細なデータへのリンクあり)
 - 2022 年 1 月 1 日現在、EU 全体の年齢中央値は 44.4 歳、つまり人口の半分がそれより若かった。この値は 2012 年より 2.5 歳、2021 年より 0.3 歳上昇している。国ごとにばらつきがあり、最も低いキプロスは 38.3 歳だった一方で、最も高いイタリアは 48.0 歳だった。2012~2022 年には、ほぼすべての EU 加盟国で年齢中央値が上昇し、例外だったのはスウェーデン(40.8→40.7 歳に減少)とマルタ(両年とも 40.4 歳)のみだった。同期間中に 5 か国(ポルトガル、スペイン、ギリシャ、スロヴァキア、イタリア)では、4 歳以上の上昇が見られた。2022 年は年齢中央値に加えて、老年人口指数((65 歳以上人口)/(15~64 歳人口)×100)も上昇した。EU 全体では 33%となっており、これは 2012 年より 5.9 ポイント、2021 年より 0.5 ポイント上昇している。指数が高かった 3 か国(イタリア、フィンランド、ポ

ルトガル)では37%を超えていた一方で、最も低い3か国(ルクセンブルグ、アイルランド、キプロス)では25%未満だった。10年前と比較すると、最も上昇幅が大きかった3か国(フィンランド、ポーランド、チェコ)では9ポイント以上の差が見られたが、最も変化が小さかったルクセンブルグでは1ポイントの上昇だった。

- **欧州:2021年の一般政府支出内訳(2/28)**

- <https://ec.europa.eu/eurostat/en/web/products-eurostat-news/w/ddn-20230228-1>
(より詳細なデータへのリンクあり)
- EU全体における2021年の一般政府総支出額は、国内総生産(GDP)の51.5%を占めており、引き続き、コロナパンデミックやそれに対する政府緩和策の影響が見られた。GDPに占める割合は前年(52.8%)より減少しており、これは、総支出額が増加(7.1兆→7.5兆ユーロ)した以上にGDPが増えたためである。支出の主な内訳を見ると、「社会保護」が引き続き最も大きな割合(GDPの20.5%)を占め、続いて「医療」(同8.1%)、「経済問題」(6.3%)などであった。EU全体で見ると、すべての分野で支出が増加していたが、特に増加の規模が大きかったのは「医療」、「経済問題」、「社会保護」だった。

- **スイス:アルツハイマー病をテーマにした歌「Wall of Glass」(ガラスの壁)がリリース:YouTubeでも視聴可能(1/27)**

- <https://www.alzheimer-europe.org/news/new-song-about-alzheimers-disease-called-wall-glass-released-video-available-youtube>
- <https://www.youtube.com/watch?v=PTaLVpWZ27g&feature=youtu.be> (オフィシャルミュージックビデオ)
- 2023年1月27日、スイスのレコードレーベルThe Hana Road Music Groupから、アルツハイマー病をテーマに歌った新曲がリリースされた。タイトルは「ガラスの壁」(Wall of Glass)で、演奏はシンガーのMALINA。この曲は、レーベル所属ライターの一人が自伝的に制作したもので、記憶をなくしていく父を想う娘の気持ちを描いている。ミュージックビデオでは最後に、「記憶を失った方々、そしてアルツハイマー病で大切な人を失くされたすべての方々に捧げます」というメッセージが映し出されている。

- **スウェーデン:「大人のおもちゃ」も買えるナーシングホーム(2/13)**

- <https://www.euronews.com/next/2023/02/13/inside-the-swedish-nursing-home-where-residents-can-buy-sex-toys-from-a-pleasure-basket>
- 高齢者や障害者のセクシャルヘルスに関する話題は、これまでタブーとされてきた。しかしスウェーデンの農村部にある入居者56人のナーシングホーム「リンガーデン」(Lindgården)では状況がだいぶ異なっており、ここでは1年前、健康的な性生活を送るためのプログラムを立ち上げた。施設長によるとこのプログラムは、ナーシングホームに入居しても、その人らしい暮らしができるようにすることを目指している、とのこと。新規の入居者には、性生活や欲求などについてもインフォーマルに話が行われる。ホームの介護スタッフもまた、カテーテル使用時の性行為の方法などについて説明を行っている。さらに入居者たちは、「部屋に入らないでください」(Please do not disturb)のドアサイ

ンや様々なクリーム、アダルトグッズなども購入できる。プログラム開始当初は、不安な声も聞かれたが、取り組みを進めていくうちに、これは性だけの問題ではなく、親密さやふれあいの重要性に関する問題でもあることが分かってきた。ホームの職員はすべて、セクソロジスト(性科学者)による研修を受けている。施設長によると、入居者たちの反応は「照れ」ながらも「前向き」だそうだ。

- **ウクライナ:戦争から 1 年—高齢者たちの苦難に関する動画や報告書を HelpAge International が発表(2/24)**

- <https://www.helpage.org/newsroom/latest-news/older-people-in-ukraine-one-year-of-endurance/> (動画へのリンクあり)
- ロシアのウクライナ侵攻から1年を迎え、国際支援機関の HelpAge International では、この戦争がウクライナの高齢者たちにもたらした影響について振り返った。同国では60歳以上が人口の1/4を占めており、ロシア侵攻の影響が大きい東部地域では、要支援者の1/3が60歳以上である。このような高齢者の割合は世界最高であり、したがってこの戦争は、世界最高齢の人道危機なのである。同国で戦闘が激しい地域では、高齢者の割合が非常に高く、死亡やケガの大きなリスクにさらされている。また戦闘区域から離れた地域でも高齢者たちは、住居や医療、経済面などで課題に直面している。この度 HelpAge International が発表した動画「Light in the Darkness」(闇の中の光)は、戦争の中でも顔を上げて歩み続けるウクライナの高齢者たちを描いている。同機関では報告書も発表しており、詳細は後述する。

- **中国:武漢で数回にわたる大規模デモ 医療手当減に高齢者怒り(2/8, 2/15)**

- <https://www.bbc.com/news/world-asia-china-64658729>
- <https://www.cnn.co.jp/world/35200139.html> (日本語記事)
- https://news.tv-asahi.co.jp/news_international/articles/000287799.html (日本語記事)
- <https://www.asahi.com/articles/ASR315HPLR2XUHBI03D.html> (日本語記事)
- 中国中部の武漢で2月15日、同月から施行された地元自治体の公的医療保険制度改革に不満を募らせた高齢者が、1万人規模の抗議デモを展開した。SNSに投稿された写真や動画には、大勢の高齢者が市中心部の公園に集まり、医療給付の削減に不満の声を上げる様子が映っている。武漢では8日にも、数千人規模で高齢者のデモがあった。武漢の保健当局は声明を発表し、「短期的には医療給付を削減する」としながらも、長期的には「病人や高齢者にとってメリットがある」と強調した。1月の公式統計によると、中国は人口14億人のうち1/5を高齢者が占め、60歳以上人口は昨年、2億8000万人に増えた。中国の2022年の人口は、60年以上ぶりに減少に転じ、経済の減速や高齢者介護に大きな影響を与えている。

- **韓国:合計特殊出生率(TFR)が、過去最低の0.78に(2/22)**

- <https://edition.cnn.com/2023/02/22/asia/south-korea-lowest-fertility-rate-record-2022-intl-hnk/index.html>
- <https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/02/302d1f72ab78a788.html> (日本語記事)
- 韓国の出生率はすでに世界最低だが、2月22日の統計局発表では、2022年のTFR(暫

定値)が前年比 0.03 減の 0.78 となり、過去最低記録を塗り替えた。粗出生率(人口 1,000 人当たりの出生数)は前年比 0.2 人減の 4.9 人だった。また 2022 年の死者数は、37 万 2800 人と前年比で 5 万 5100 人増加した。出生数から死者数を差し引いた自然増減数は 12 万 3800 人減と、過去最大の減少を記録した。全国的な少子化の要因として、高齢出産が進んでいることに加え、厳しい労働の文化や賃金の停滞、生活費の高騰、結婚観や男女平等に関する意識の変化、若者の幻滅感の高まりなどが考えられる。韓国政府はここ 16 年間にわたり、少子化対策に 28 兆円以上を投じたが、その効果は見えていない。

- **シンガポール:TFR が過去最低の 1.05 に(2/24~)**

- <https://www.channelnewsasia.com/singapore/singapore-total-fertility-rate-population-births-ageing-parents-children-3301846>
- <https://www.todayonline.com/singapore/news-analysis-dip-singapore-2022-low-birth-rate-2024-dragon-year-2116546>
- シンガポールでは 2022 年、TFR が過去最低の 1.05 となった。2020 年は 1.1、2021 年は 1.12 である。TFR 低下の一因として政府は、2022 年が寅年であったことを挙げている。前回の寅年である 2010 年も、前後の年より TFR が低かった。中国では従来より「寅年生まれ」を避け、翌年の辰年生まれが増えるという傾向が見られる。ただし政府では、長期的な少子化が、他の先進国と同様に進んでいる点も指摘している。



**海外／国際機関で最近発表された／近日発表される
報告書・ガイドブックなど**

- **世界各国:Global Status Report on Physical Activity 2022: Country Profiles(身体活動に関する世界現状報告 2022: 国別プロフィール)(1/31、WHO 報告書)**
 - <https://www.who.int/publications/i/item/9789240064119> (全文へのリンクあり)
 - <https://japan-who.or.jp/news-report/2302-4/> (日本語記事)
 - この報告書では、身体活動に関するグローバル・アクション・プラン(GAPPA)2018-2030 の政策提言について、各国の実施状況を紹介している。また、身体活動レベルの向上に保健システムが取り組まない場合の推計コストも計算し、政府全体で優先的にこの問題への対応を強化する必要性を訴えている。高齢者関連の情報では、60 歳以上人口の割合、70 歳以上の人の身体不活動率、高齢者の身体活動促進プログラムの有無、高齢者の身体活動に関する国のガイドライン有無などについて、国別に情報が記載されている。
- **世界各国:Call to the Governments of the World on Ageing and Long-Term Care(エイジングと介護に関する世界各国政府への呼びかけ)(2/14、The Global Ageing Network 報告書)**
 - <https://www.alzheimer-europe.org/news/global-ageing-network-launches-call-governments-world-long-term-care-and-ageing> (全文へのリンクあり)

- Global Ageing Network (GAN)が発表したこの報告書では、世界各国の政府に対し、高齢者介護システムの改革を呼びかけている。高齢者人口が増加する一方で、介護人材や政府支援が不足しているため、高齢者介護ニーズへ十分に応えるためには直ちに対応が必要である。報告書では、介護に関する主な問題や課題とともに、解決への具体的な方向性や重要な原則も示している。報告書は、世界各国の医療福祉関連省庁に配布された。
- **OECD:Time for Better Care at the End of Life(今こそ終末期ケアの改善を)(2/7、OECD 報告書)**
 - <https://www.oecd.org/health/time-for-better-care-at-the-end-of-life-722b927a-en.htm> (全文および発表イベント動画へのリンクあり)
 - 慢性疾患や高齢者の増加とともに、終末期ケアのニーズも高まっているが、サービス提供との間に大きなギャップが見られる。自宅での最期を望む人が多い中、OECD 加盟国では現在も、病院での死亡が半数以上を占めている。問題点としては、サービス提供量の不足やケア・コーディネーションの問題、学歴によるアクセスの格差、事前の計画や共同での意思決定の少なさなどが挙げられる。報告書では改善案として、質の測定やモニタリングのほか、ケアの資金調達やガバナンスモデルの見直し、医療職全般での知識向上などを提示している。
- **OECD:Ready for the Next Crisis? Investing in Health System Resilience(次の危機への準備は？医療システムのレジリエンスへの投資)(2/23、OECD 報告書)**
 - <https://www.oecd.org/health/ready-for-the-next-crisis-investing-in-health-system-resilience-1e53cf80-en.htm> (全文へのリンクあり)
 - コロナパンデミックは世界中に大きな影響をもたらし、医療システムの脆弱性が浮き彫りとなった。レジリエントな医療システムとは、パンデミックや経済危機などのショックへの計画や準備ができており、危機の影響を最小限に抑え、そこから迅速に回復し、さらなる改善を行うものである。健康を増進させ、また次のショックへ十分に備えるためには、ターゲットを絞った医療システムへの賢い投資が必要である。この報告書では、コロナパンデミックからの学びを振り返った上で、世界が次の危機へ準備できるよう政策提言を行っている。振り返りや提言では、医療システム(人材、デジタル化、ケアの継続性、メンタルヘルスなど)のほか、介護やサプライチェーン、国際協力など他の関連トピックもカバーしている。
- **低中所得国:Achieving Equitable Healthy Aging in Low- and Middle-Income Countries: The Aging Readiness & Competitiveness Report 4.0(低中所得国で公平なヘルシーエイジングの実現を:エイジングへの準備と競争性に関する報告 4.0)(2023年2月、AARP 報告書)**
 - <https://www.aarpinternational.org/initiatives/aging-readiness-competitiveness-arc/arc-4> (全文および紹介動画へのリンクあり)
 - [https://www.decadeofhealthyageing.org/find-knowledge/resources/publications/detail/aging-readiness-competitiveness-\(arc\)-initiative-report-4.0](https://www.decadeofhealthyageing.org/find-knowledge/resources/publications/detail/aging-readiness-competitiveness-(arc)-initiative-report-4.0)
 - 世界で人口の高齢化が加速化しており、特に低中所得国でその傾向が顕著となっている

る。高齢者の間で、性別や社会経済的地位などによる格差はどの国でも見られるが、世界的に協力して取り組むことで、ヘルシーエイジングの実現がより公平なものになる。この報告書では、データや分析に基づいて現実的な解決案を示し、公的および民間セクターや、市民社会、個人レベルでの先駆的な実践例もいくつか紹介している。

- **欧州: The Impact of Demographic Change in a Changing Environment (変わりゆく環境における人口変動の影響) (1/17、欧州委員会報告書)**

- https://joint-research-centre.ec.europa.eu/jrc-news/dealing-demographic-transition-drivers-change-and-impact-across-europe-2023-01-17_en (全文へのリンクあり)
- 人口変動は、経済や医療福祉、予算、住宅ニーズなどへ大きな影響を及ぼすものである。したがってその理解を深めることで、影響への対応や今後の備えが行いやすくなる。この報告書では欧州の人口について、長期的および短期的な視点から動向をまとめている。特に近年では、英国のEU離脱やコロナパンデミック、ロシアのウクライナ侵攻が、EU諸国の人口に影響を与えた。また人口の高齢化や全体的な人口減少、生産年齢人口の減少、地域(都市部と農村部など)間の格差などの課題についても、報告書では議論している。ただし人口変動の状況は各国で異なっており、一つの国の中でも状況は違っている。EU諸国の繁栄とウェルビーイングを確かなものとするためには、人口動向がもたらす課題への対応が極めて重要である、と報告書は強調している。同時に、人びとがより長く健康で暮らせるようになったことは、社会的な功績であり、シルバー経済も含めてチャンスをもたらすものである。

- **英国: Ageism: What's the Harm? (エイジズム: 何が悪いの?) (2/7、Centre for Ageing Better 報告書)**

- <https://ageing-better.org.uk/resources/ageism-whats-harm> (全文へのリンクあり)
- エイジズムは、年齢を理由に誰かを差別することである。エイジズムは「無害なもの」として見過ごされがちだが、個人や経済、社会へ大きな被害をもたらしていることが、エビデンスで示されている。エイジズムは主に3種類あり、具体的には制度(institutional: 法規制、社会規範、政策、組織での慣行など)、対人(interpersonal: 個人間でのやりとりなど)、自己(self-directed: 年齢差別的なメッセージを繰り返し受けることで、エイジズムを自分自身の中に取り込み、考えや行動が変わること)とされている。この報告書では、エイジズムがいかんにして、人びとや経済、社会へ深く長期的な被害をもたらすかについて示している。また最後の提言では、メディア、雇用者、医療従事者、政府、自治体、地域に対し、それぞれで取り組むべき点をまとめている。

- **英国: Care Data Matters: a Roadmap for Better Data for Adult Social Care (ケアデータの重要性: 成人ソーシャルケアのデータ改善に向けたロードマップ) (2/16、政府ガイダンス)**

- <https://www.gov.uk/government/publications/care-data-matters-a-roadmap-for-better-data-for-adult-social-care> (全文や付属資料へのリンクあり)
- <https://consultations.dhsc.gov.uk/63d0f0d38f403cc0a70b343e> (アンケートページ)
- このガイダンスでは、イングランドの成人ソーシャルケアで、データの収集、共有および分析方法改善に向けた政府のロードマップを示しており、これは医療ソーシャルケア・デ

一タ戦略の取り組みに基づいている。今回発表されたロードマップは草稿段階のものであり、様々な関係者(自治体、ケア事業者、他の専門職、無償ケアラー、要支援者など)からの意見・コメントを募集している。意見は上記のアンケートページから送付でき、2023年7月31日まで受け付けている。送られた意見を参考にしてロードマップを更に改善し、最終版を2023年末までに発表予定である。

- **英国: Cast Aside: Exploring the Presence of Older Characters in British Films(見捨てられたキャスト:英国映画における高齢者の存在検証)(2/16、Centre for Ageing Better 報告書)**
 - <https://ageing-better.org.uk/news/new-study-shows-ageist-british-film-industry-casts-out-older-characters> (全文へのリンクあり)
 - <https://ageing-better.org.uk/resources/cast-aside-exploring-presence-older-characters-british-films> (全文および付属資料(Screening older age: The representation of older adults in British cinema between 2010 and 2022)へのリンクあり)
 - この調査では、英国の映画業界で、高齢者の役が実情を十分に反映していない状況が続いていることが示された。調査では3つの時点(2010~2013年、2015~2018年、2021年~2022年)で50本近くの人気映画を対象に、1,200人以上の登場人物を分析した。その結果、業界では現在も、高齢者を中心人物とする映画制作には後ろ向きであり、特に高齢女性の役でその傾向が強く見られた。この10年間で若干の改善は見られたものの、それは主に高齢の助演俳優が増えたためである。また女性の場合、出演が増えたのは50代と60代に限られており、70代以降の女優については改善が見られなかった。同様に、人種や民族マイノリティの高齢者も、露出度が低かった。
- **英国: Fixing the Foundations: Why It's Time to Rethink How We Support Older People with Health Problems to Stay Well at Home(土台修復:健康問題のある高齢者の自宅生活継続支援を、今なぜ見直すべきか)(2/17、Age UK 報告書)**
 - <https://www.ageuk.org.uk/latest-press/articles/2023/the-crisis-in-the-nhs-is-largely-a-crisis-in-older-peoples-preventive-care-and-if-were-to-avoid-another-catastrophic-winter-in-nine-months-time-we-need-to-act-now-to-fix-it-warns-age-uk/> (全文へのリンクあり)
 - この報告書では、高齢者本人たちの声を集めて、自身のニーズや医療・ソーシャルケアの課題をまとめており、随所で本人たちによる生の声を紹介している。現状では、自宅での生活を継続するには支援が不十分であり、多くの高齢者が、入院など危機的状況につながるリスクにさらされている。しかしエビデンスでは、適切なタイミングで適切なケアが提供されれば、その多くは避けられたはずであることが示されている。報告書ではまた、専門職や無償ケアラーの視点も紹介している。最後には提言として、統合ケアシステム(ICS)、ソーシャルケア改革、継続的な財源増、多職種による取り組み、医療介護職の賃金改善、無償ケアラーへの支援改善を呼びかけている。
- **ウクライナ: I've Lost the Life I Knew: Older People's Experiences of the Ukraine War and Their Inclusion in the Humanitarian Response(失われた生活:高齢者のウクライナ戦争体験と人道支援への組み込み)(2/23、HelpAge International 報告書)**

- <https://www.helpage.org/newsroom/latest-news/older-people-in-ukraine-one-year-of-endurance/> (全文へのリンクあり)
 - <https://www.helpage.org/newsroom/latest-news/ukraine-older-people-unable-to-afford-food-medicines-other-essentials/> (全文へのリンクあり)
 - ウクライナ人道支援における高齢者の権利に関するこの報告書では、若者と比較して高齢者の経済状況が厳しく、また基本的なサービスにもアクセスしにくい現状が示された。また60代よりも70歳以上の人、高齢男性よりも女性の方が厳しい状況であった。報告書ではたとえば、以下の様なデータが示されており、最後にはNGOに対して、高齢者への人道支援強化を呼びかけている。
 - ◇ 60歳以上の方は60歳未満の方と比べて、食費を抑えたり食料を買うためにお金を借りる人の割合が高かった(60歳以上:男性は35%、女性は42%。60歳未満:男性は23%、女性は37%)。
 - ◇ 高齢女性の61%は、基本的なニーズをカバーするのに十分なお金を持っていなかった(男性は46%)。
 - ◇ 食料へのアクセスが困難と感じていたのは、60代では2.35%だったが、70歳以上は8.25%にのぼった。
- **オーストラリア:Exploring Pathways for Younger People Living in Residential Aged Care(高齢者ケア施設の若年入居者:入居経緯の分析)(2/3、Australian Institute of Health and Welfare 報告書)**
 - <https://www.aihw.gov.au/reports/aged-care/younger-people-living-residential-aged-care/summary> (全文へのリンクあり)
 - オーストラリアの高齢者ケアサービスはニーズに基づいて提供されており、状況によっては65歳未満の若年層も高齢者ケア施設に入居している。この報告書では、同施設に入居する若年層を取り上げ、その特性や入居経緯を分析している。2009~2010年から2019~2020年の11年間で高齢者ケア施設に入居していた2万7900人以上の若年層のデータを用いた分析では、たとえば以下の点が分かった。
 - ◇ 同施設の若年入居者数は、2016~2017年より減少傾向が見られる。2013~2014年には8,400人でピークを迎え、2019~2020年には最低の6,700人だった。
 - ◇ 初回の入居理由として最も多かったのは認知症で、2016年以降のデータで全体の18%を占めた。
 - ◇ 全体の34%は、初回の入居前に在宅支援サービスを受けていた。
 - **オーストラリア:Dementia in Australia(オーストラリアの認知症)(2/23、Australian Institute of Health and Welfare 報告書)**
 - <https://www.aihw.gov.au/reports/dementia/dementia-in-aus/contents/about> (詳細情報やサマリーへのリンクあり)
 - <https://insideageing.com.au/dementia-surpasses-heart-disease-as-the-leading-disease-impacting-ageing-australians/>
 - このオンライン報告書では、オーストラリアの認知症について総合的にまとめており、たとえば罹患率や死亡、支出などに関する最新データや、医療介護サービスの利用、認知

症ケアラーの情報などが掲載されている。最新の統計では、認知症が冠動脈疾患を抜いて高齢者の死因トップとなった。認知症の増加要因には、人口の高齢化だけでなく、他の疾病罹患者の減少も含まれる。2022年現在、オーストラリアでは40万1300人が認知症と共に暮らしており、前年より4%増えていた。この数は2058年までに倍増し、84万9300人になると見込まれる。

- **オーストラリア:My Aged Care Assessment Manual(My Aged Care アセスメントマニュアル)**
(2/27、政府作成のマニュアル)

- <https://www.health.gov.au/resources/publications/my-aged-care-assessment-manual?language=en> (全文へのリンクあり)
- このマニュアルは、地域アセスメントサービス(RAS)と高齢者ケアアセスメントチーム(ACAT)を対象としたもので、アセスメント担当者が高齢者の支援ニーズや各種サービス受給資格を効果的に調査する際に使用する。マニュアルは、「スクリーニング、紹介、アセスメント」、「委任、承認プロセス」、「政府助成の高齢者ケアの種類」、「苦情、レビュー」、「費用、支払い」、「運営手続き」のセクションで構成されている。